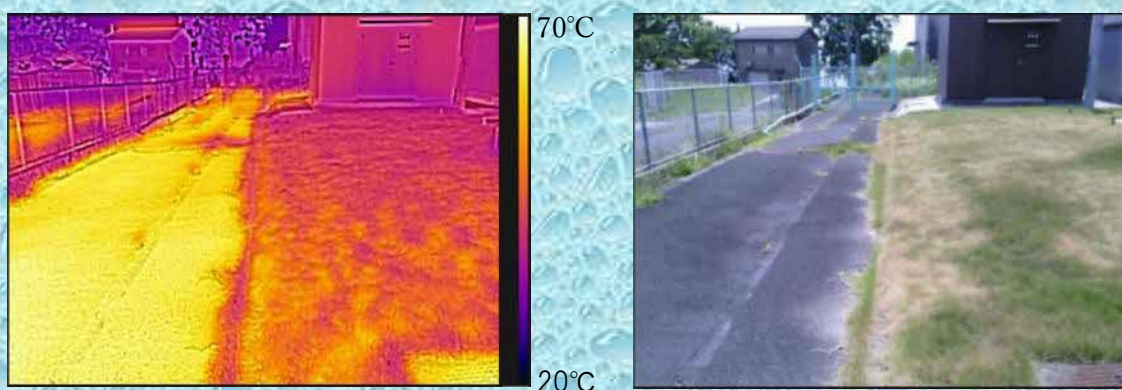


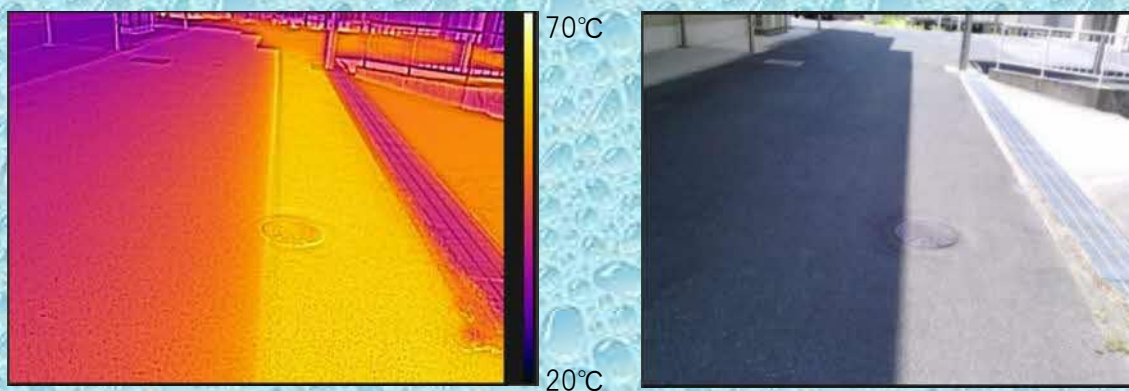
島根県 気候変動適応情報 Vol.1

熱中症を防ごう！

令和4年6月28日、島根県内で今年度初めて熱中症アラートが発表され、今後ますます熱中症への備えが重要となります。ではどのような場所が危険で、どのような場所が安全なのでしょう？あらためて考えるため、赤外線カメラでいろいろな場所を撮ってみました。まずは島根県保健環境科学研究所の敷地内です。



この日は熱中症アラートが発表された日で、研究所内の温度計で 35°Cを記録した日でした。左が赤外線カメラの写真で、白～黄色に近いほど熱く、紫～黒で冷えていることを表しています。写真の左側はアスファルトですが、表面温度が 65°Cを超えていました。写真の右側は芝生ですが、アスファルトほど熱くはないですが、緑のところは約 45°C、枯れているところは約 50°Cにもなっていました。アスファルトの道は照り返しも注意が必要となります。緑が生い茂ったところのほうが照り返しもなく、表面温度が低いので、より快適であることが分かります。



次は日向と日陰の温度差です。日向は約 60°Cですが、日陰はグラデーションが掛ったように、日向側が約 50°C、建物側が約 35°Cでした。日陰でも 15°Cも温度差ができています。できるだけ日光から距離をとるようにすることが大事であると言えます。

今後も不定期で気候変動への適応の一助となるような情報をお届けします。

使用機器:FLIR C5 サーモグラフィカメラ
執筆者:気候変動適応センター 江角